



2024年5月13日

各 位

会社名 アイホン株式会社  
代表者名 代表取締役社長 鈴木 富雄  
(コード番号 6718 東証プライム・名証プレミア)  
問 合 せ 執行役員管理本部長  
兼経営企画部長 磯村 直輝  
(TEL 052-228-8181)

(訂正)「2024年3月期 決算短信(連結)」説明資料の一部訂正に関するお知らせ

2024年5月8日付で発表いたしました「2024年3月期 決算短信(連結)」の説明資料につきまして、記載内容の一部に訂正すべき事項がありましたので、下記のとおり訂正いたします。

## 記

### 1. 訂正の理由

「2024年3月期 決算短信(連結)」の提出後に、記載内容の一部に誤りがあることが判明いたしましたので、訂正いたします。

### 2. 訂正の内容

「2024年3月期 決算短信(連結)」P20、21  
「7. 説明資料 2024年3月期決算(連結)のポイント」  
訂正箇所には赤枠を付しております。

## アイホン株式会社 2024年3月期決算(連結)のポイント

**売上高** 電子部品等の供給状況の正常化に伴い、国内集合住宅市場のリニューアル及び北米を中心に前年度からの受注残・バックオーダーが解消したことや、為替の影響もあり、当初計画を大幅に上回り3期連続の増収となりました。

**利益** 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、為替の影響や部品コスト等の増加はあるものの、大幅な増収により利益が増加し、大幅な増益となりました。

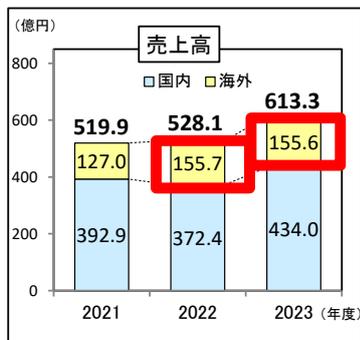
(円貨:1千万円未満切捨て 現地通貨:単位未満切捨て)

**連結売上高**  
613.3億円  
(過去最高)

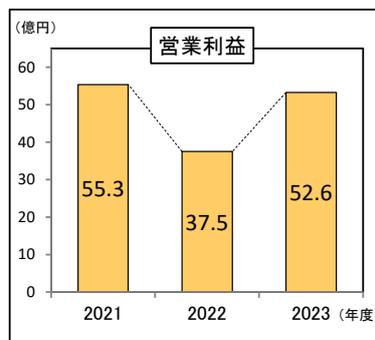
(内訳)

**海外市場**  
179.2億円  
(過去最高)

**国内市場**  
434.0億円  
(過去最高)



**連結営業利益**  
52.6億円



### 〔売上〕

国内市場全体で61.6億円の増加(前期比 16.5%増加)

#### ◆住宅市場

商品供給が正常化したことにより、前年度からの受注内定残が消化され、集合住宅市場のリニューアルを中心に増加。

住宅市場全体として23.0億円の増加。(前期比 19.6%増)

#### 戸建住宅市場

- ◎主力のワイヤステレビドアホンの販売が好調に推移。
- ◎価格改定効果により売上が増加。

#### 集合住宅市場

- ◎分譲マンション向け高付加価値商品『dearis』の販売が好調に推移。
- ◎賃貸マンション向け商品『PATMO α』の販売が好調に推移。
- ▲市場競争の正常化により、分譲マンション向けの新築売上が大幅に減少。

#### ◆ケア市場

病院着工数減少の影響により新築は減少するものの、病院・施設等の課題解決型提案が奏功し、リニューアルが大幅に増加。

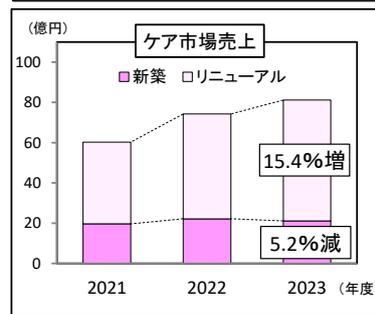
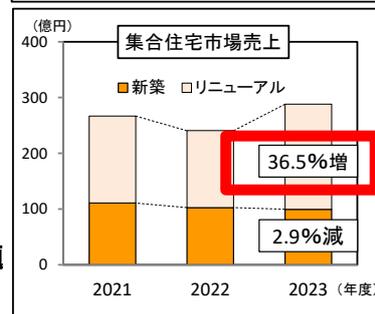
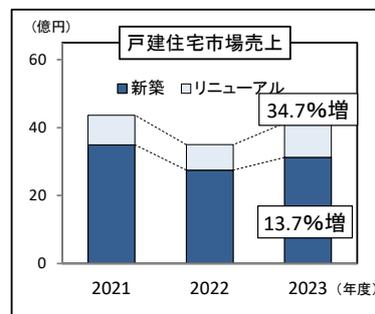
ケア市場全体として6.8億円の増加。(前期比 9.3%増)

#### ケア新築市場

- ▲当社の納入時期にあたる病院着工数は前期比減少。
- ▲病院案件の納入時期が上半期偏重となり、下半期は前期比減少。

#### ケアリニューアル市場

- ◎継続的なソリューション提案活動により、病院等への販売が好調に推移。
- ◎病院、施設等で「見守り支援」の需要が高まり、販売に好影響。
- ◎自治体等からの補助金活用によるシステム導入支援が継続。



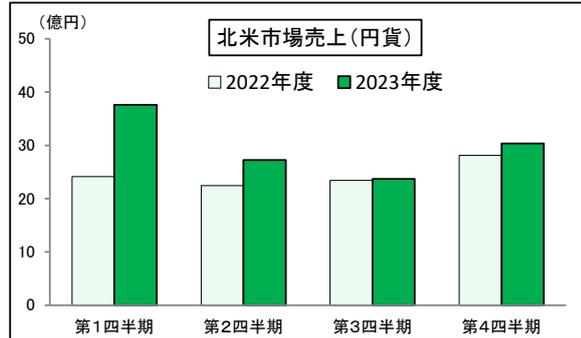
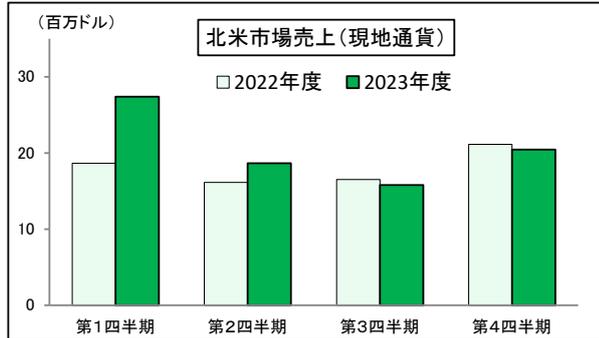
### 国内市場

住宅市場の販売に大きく影響を与えていた部品不足に起因する商品供給の不安定な状況が解消されたことにより、集合住宅のリニューアル売上が大幅に増加。集合住宅・病院の新築売上の減少はあったものの、国内市場全体で前期比 16.5%の増加。

**海外市場全体で23.6億円の増加(前期比 15.2%増)**

- ◆北米市場 現地通貨ベースで増加(前期比 13.6%増)  
円貨ベースでは20.8億円の増加(前期比 21.2%増)

◎商品供給の正常化により、業務市場を中心にIPネットワーク対応商品の販売が増加。  
 ◎バックオーダー発生時の代替商品として小規模物件での採用が進んだテレビドアホンの販売が、第2四半期のバックオーダー解消以降も好調を維持。  
 ◎為替の影響により、円貨では前期から大幅に増加。  
 ▲リモートワークの普及や金利負担の増大により、企業の自社オフィスへの設備投資を抑制する動きが見られたことなどから、下半期以降はオフィス向けの販売が急激に鈍化。



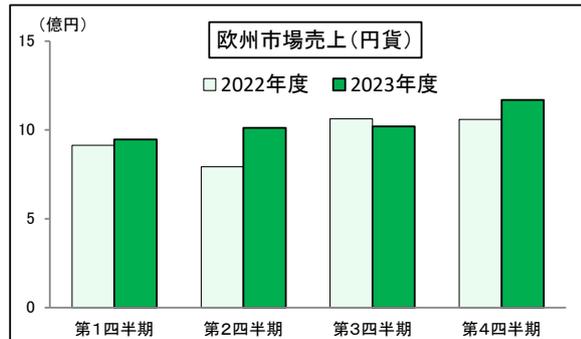
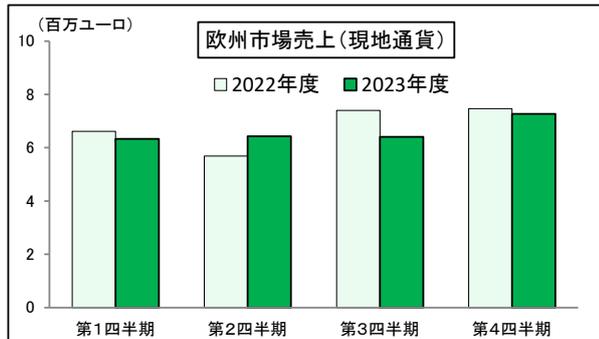
- ◆欧州市場 現地通貨ベースで減少(前期比 2.7%減)  
円貨ベースでは3.1億円の増加(前期比 8.2%増)

**フランス**

◎商品供給の正常化を背景に、積極的なプロモーション活動の推進により、戸建住宅向けWi-Fi対応テレビドアホンの販売が好調に推移。  
 ◎為替の影響により、現地通貨ベースでは減少したものの、円貨ベースの売上が増加。  
 ▲住宅ローン金利の上昇等に端を発する新築住宅着工数が大幅に減少。  
 ▲エネルギー関連商材への投資を優先する傾向が強まったことにより、業務市場のインターホン販売が低迷。

**イギリス**

◎下半期以降の市況の安定化により、IPネットワーク対応インターホンシステムを中心に業務市場での販売が好調に推移。



**海外市場**

欧州経済の不安定な状況が長期化している影響により、主要国フランスの販売が減少したものの、商品供給の正常化を背景に北米のバックオーダーが解消したことにより、上半期の売上が大幅に増加。為替の影響もあり、海外市場全体で前期比 15.2%の増加。

**[利益]**

- 営業利益15.0億円の増加(前期比 40.2%増)
- 経常利益19.6億円の増加(前期比 47.1%増)
- 親会社株主に帰属する当期純利益17.1億円の増加(前期比 58.6%増)

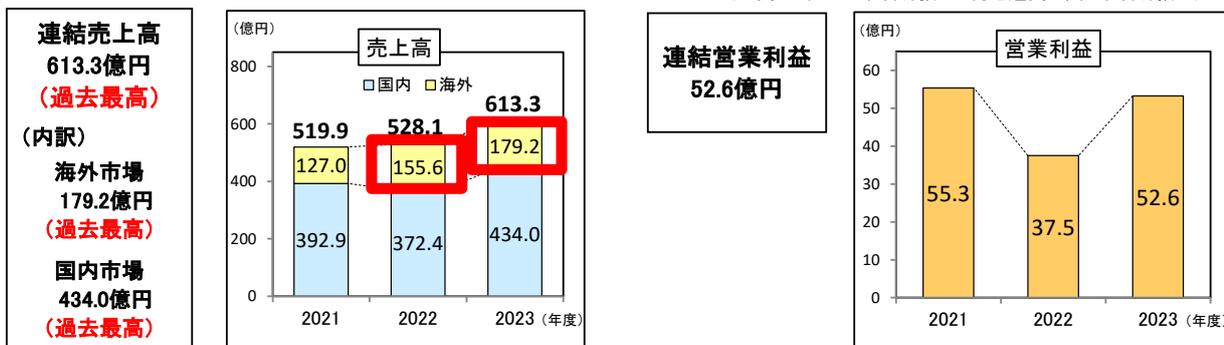
◎売上高の増加や価格改定の効果により、売上総利益が大幅に減少。  
 ▲研究開発費の増加等により、販管費が増加。

## アイホン株式会社 2024年3月期決算(連結)のポイント

**売上高** 電子部品等の供給状況の正常化に伴い、国内集合住宅市場のリニューアル及び北米を中心に前年度からの受注残・バックオーダーが解消したことや、為替の影響もあり、当初計画を大幅に上回り3期連続の増収となりました。

**利益** 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、為替の影響や部品コスト等の増加はあるものの、大幅な増収により利益が増加し、大幅な増益となりました。

(円貨:1千万円未満切捨て 現地通貨:単位未満切捨て)



### 〔売上〕

国内市場全体で61.6億円の増加(前期比 16.5%増加)

#### ◆住宅市場

商品供給が正常化したことにより、前年度からの受注内定残が消化され、集合住宅市場のリニューアルを中心に増加。

住宅市場全体として**53.9億円**の増加。(前期比 19.6%増)

#### 戸建住宅市場

- ◎主力のワイヤレステレビドアホンの販売が好調に推移。
- ◎価格改定効果により売上が増加。

#### 集合住宅市場

- ◎分譲マンション向け高付加価値商品『dearis』の販売が好調に推移。
- ◎賃貸マンション向け商品『PATMO α』の販売が好調に推移。
- ▲市場競争の正常化により、分譲マンション向けの新築売上が大幅に減少。

#### ◆ケア市場

病院着工数減少の影響により新築は減少するものの、病院・施設等の課題解決型提案が奏功し、リニューアルが大幅に増加。

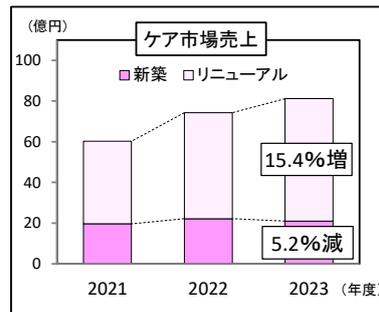
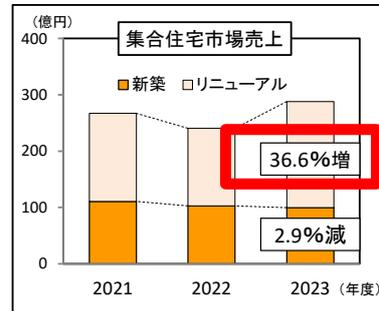
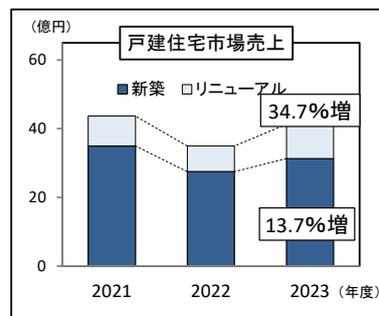
ケア市場全体として6.8億円の増加。(前期比 9.3%増)

#### ケア新築市場

- ▲当社の納入時期にあたる病院着工数は前期比減少。
- ▲病院案件の納入時期が上半期偏重となり、下半期は前期比減少。

#### ケアリニューアル市場

- ◎継続的なソリューション提案活動により、病院等への販売が好調に推移。
- ◎病院、施設等で「見守り支援」の需要が高まり、販売に好影響。
- ◎自治体等からの補助金活用によるシステム導入支援が継続。



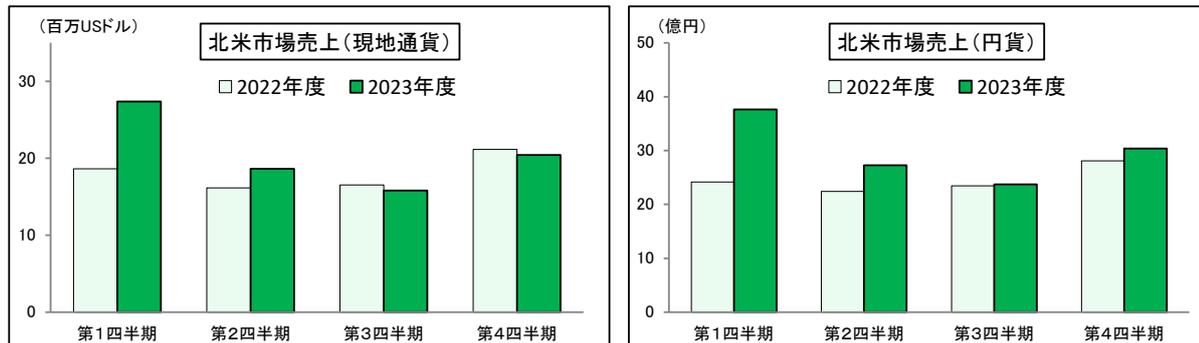
### 国内市場

住宅市場の販売に大きく影響を与えていた部品不足に起因する商品供給の不安定な状況が解消されたことにより、集合住宅のリニューアル売上が大幅に増加。集合住宅・病院の新築売上の減少はあったものの、国内市場全体で前期比 16.5%の増加。

**海外市場全体で23.6億円の増加(前期比 15.2%増)**

- ◆北米市場 現地通貨ベースで増加(前期比 13.6%増)  
円貨ベースでは20.8億円の増加(前期比 21.2%増)

◎商品供給の正常化により、業務市場を中心にIPネットワーク対応商品の販売が増加。  
 ◎バックオーダー発生時の代替商品として小規模物件での採用が進んだテレビドアホンの販売が、第2四半期のバックオーダー解消以降も好調を維持。  
 ◎為替の影響により、円貨では前期から大幅に増加。  
 ▲リモートワークの普及や金利負担の増大により、企業の自社オフィスへの設備投資を抑制する動きが見られたことなどから、下半期以降はオフィス向けの販売が急激に鈍化。



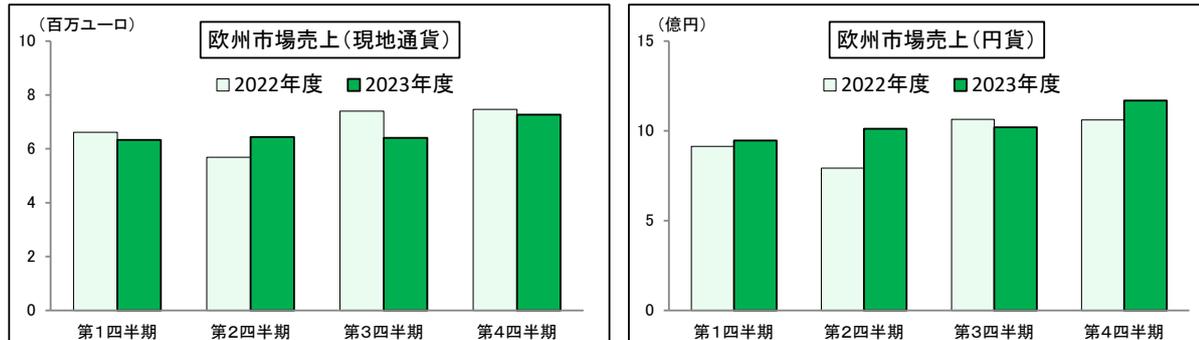
- ◆欧州市場 現地通貨ベースで減少(前期比 2.7%減)  
円貨ベースでは3.1億円の増加(前期比 8.2%増)

**フランス**

◎商品供給の正常化を背景に、積極的なプロモーション活動の推進により、戸建住宅向けWi-Fi対応テレビドアホンの販売が好調に推移。  
 ◎為替の影響により、現地通貨ベースでは減少したものの、円貨ベースの売上が増加。  
 ▲住宅ローン金利の上昇等に端を発する新築住宅着工数が大幅に減少。  
 ▲エネルギー関連商材への投資を優先する傾向が強まったことにより、業務市場のインターホン販売が低迷。

**イギリス**

◎下半期以降の市況の安定化により、IPネットワーク対応インターホンシステムを中心に業務市場での販売が好調に推移。



**海外市場**

欧州経済の不安定な状況が長期化している影響により、主要国フランスの販売が減少したものの、商品供給の正常化を背景に北米のバックオーダーが解消したことにより、上半期の売上が大幅に増加。為替の影響もあり、海外市場全体で前期比 15.2%の増加。

**[利益]**

- 営業利益15.0億円の増加(前期比 40.2%増)
- 経常利益19.6億円の増加(前期比 47.1%増)
- 親会社株主に帰属する当期純利益17.1億円の増加(前期比 58.6%増)

◎売上高の増加や価格改定の効果により、売上総利益が大幅に増加。  
 ▲研究開発費の増加等により、販管費が増加。

問い合わせ先  
 アイホン株式会社 経営企画部  
 052-228-8181